



2026年3月期 第1四半期 |

決算説明資料

2025年8月8日

Mipox株式会社

証券コード 5381

イノベーションに 磨きをかける。

イノベーションに磨きをかける。

最先端を研ぎ澄ます。

次の100年を切り開き、世界の常識を塗り替える。

日本には「つゆはらい」という言葉があります。

行列の先を行って障害を取り払うこと。

人々を先導すること。

転じて、何かを最初に行うこと。

お客様が進む未来の先に立ち塞がる課題を、先回りして取り除いておく。

世の中に横たわる課題に、まだ来ない誰かが躓かないように解決しておく。

100年にわたり「塗る・切る・磨く」ソリューションを提供してきた

私たちの仕事は、お客様と社会の行く先に磨きをかけること。

そして皆さんと切磋琢磨しながら、

私たち自身の技術にも磨きをかけることに他なりません。

これからの100年も、

未来が、眩しく光輝くように

私たちは、強く優しく磨き続けます。

mipox

Agenda

01

会社概要

Company overview

02

2026年3月期
第1四半期実績

FY2026 1Q Financial Results

03

通期業績見通し

Full Year Forecast

04

事業内容

Our Business

05

競争力の源泉

Competitive Advantage

06

成長戦略

Growth Strategy

07

Appendix

Appendix

会社名	Mipox株式会社
英文名	Mipox Corporation
創業	大正14年（1925）年11月21日
設立	昭和16年（1941）年12月12日
代表者	代表取締役社長 渡邊 淳
本店・本社	〒322-0014 栃木県鹿沼市さつき町18
株式市場名	東京証券取引所 スタンダード
証券コード	5381

【経営方針】

付加価値向上

エンジニアリング
アプローチによる
製品事業の付加価値向上



事業転換

受託事業から
エンジニアリング
サービス事業への転換

経営基盤の整備

早い変化と
多様性に対応できる
経営基盤の整備

mipox

Ref Lite
Color Your Style.

MISUMI

Nikken

スガ コーディングス

OOKUBO IRON-WORK

thomas

株式会社 ウジケ

「塗る、切る、磨く」を極めた技術力

創業から続く箔の製造技術を応用することで「塗る」「切る」「磨く」技術をコアにした事業を展開した企業です。
コア技術を組み合わせ、お客様の成功のための付加価値を創造するための製品とサービスを提供します。



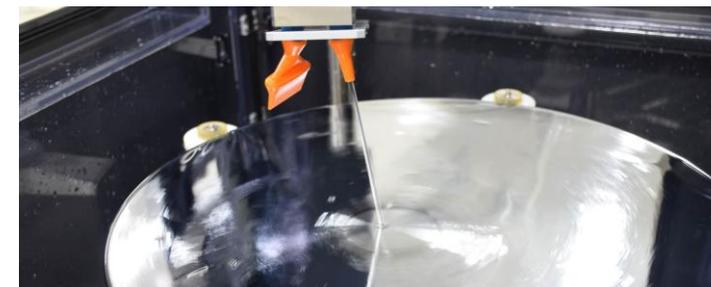
塗る Coating

PETフィルム、銅箔、織布、紙等の基材に、調合した樹脂等の塗料を均一に塗布。
自社製品である研磨材や反射材だけでなく、保有する複数の塗工機によって要望に合わせた機能性フィルムの製造も実現。



切る Slitting

「塗る」ことで出来た製品を希望のサイズに裁断（スリット）。高精密さが求められるハードディスク向け研磨フィルムの製造で培った技術によって、裁断が困難といわれている素材でも精度の高い切り口と巻き上げを実現し、高品質の製品を提供。



磨く Polishing

徹底的な顧客視点を持った製品開発のために自社の研磨材と独自の研磨装置で研磨プロセスの研究を積み重ねる。
ハイテク分野で培った高精度研磨加工技術で次世代半導体ウェーハの研磨にも挑戦し、研磨市場に於けるプロフェッショナルを目指す。

拠点開設	事業領域	売上高 (百万円)	トピックス	
1925 東京都京橋区にて設立	製品事業 受託事業		顔料と色箔の輸入業者としてドイツ資本により設立 (独逸顔料合名会社)	
1981			日本マイクロコーティング株へ商号変更	
2001		6,858	JASDAQ店頭市場に上場	
2002		4,439		
2003		4,949		
2004		7,197		
2005		10,799		
2006		8,966		
2007		8,329		
2008		6,083		
2009		3,238		2009年3月期 渡邊淳が代表取締役社長に就任 (現代表)
2010		3,013		受託事業強化
2011		3,157		
2012 インド、中国 (上海)		3,045		
2013 フィリピン		2,815 594 3,409		Mipox株へ商号変更、本社を東京都立川市へ移転
2014 台湾		3,202 558 3,760		
2015 京都府京都市		3,606 379 3,985		日本レフライト工業株を子会社化、Mipox Kyoto株を設立
2016 ベトナム、広島県福山市		3,930 274 4,204		日本研紙株を子会社化
2017		6,219 190 6,410		Mipox Kyoto株を吸収合併
2018		7,009 816 7,826		
2019		7,083 474 7,558		日本研紙株の営業機能を統合
2020 中国 (深セン)		6,832 506 7,338		Ref Liteのリブランド
2021 広島県呉市		6,416 944 7,361		本店を山梨県北杜市へ移転、日本研紙株を吸収合併、オムニ・カーボナイト事業を吸収分割
2022 栃木県鹿沼市		7,570 2,879 10,449		ミスミ化学株を子会社化、本社を東京都四谷に移転
2023		7,948 2,080 10,029		本店本社を栃木県鹿沼市へ移転、(株)スガコーディングスの粉体塗装事業を譲受、(有)大久保鉄工所を子会社化
2024 熊本県熊本市、宮城県仙台市、石川県金沢市	7,618 1,735 9,354		インド工場を移転、thomas 株への出資	
2025	9,956 1,215 11,172		創業100周年、マイボックス株式会社へ商号変更(予定)	



Agenda

01

会社概要

Company overview

02

2026年3月期
第1四半期 実績

FY2026 1Q Financial Results

03

通期業績見通し

Full Year Forecast

04

事業内容

Our Business

05

競争力の源泉

Competitive Advantage

06

成長戦略

Growth Strategy

07

Appendix

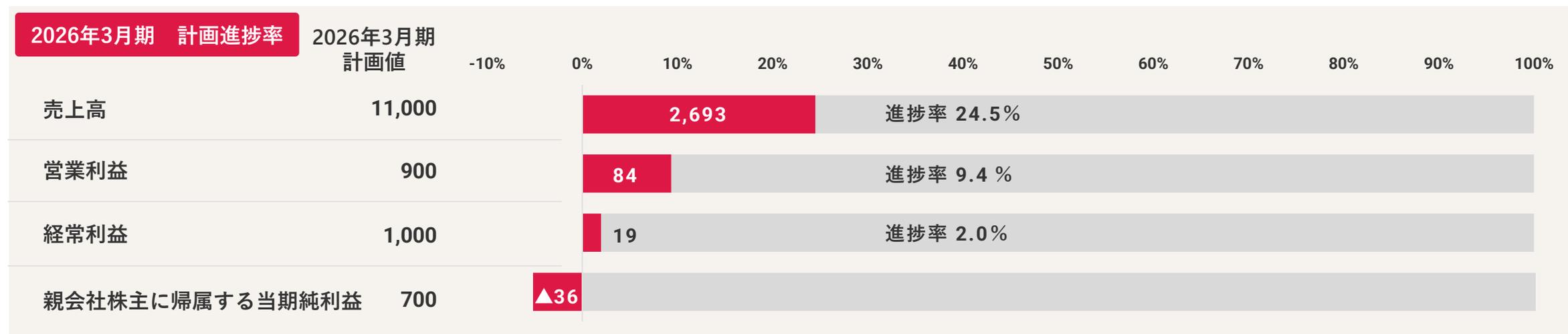
Appendix

02 PLサマリー

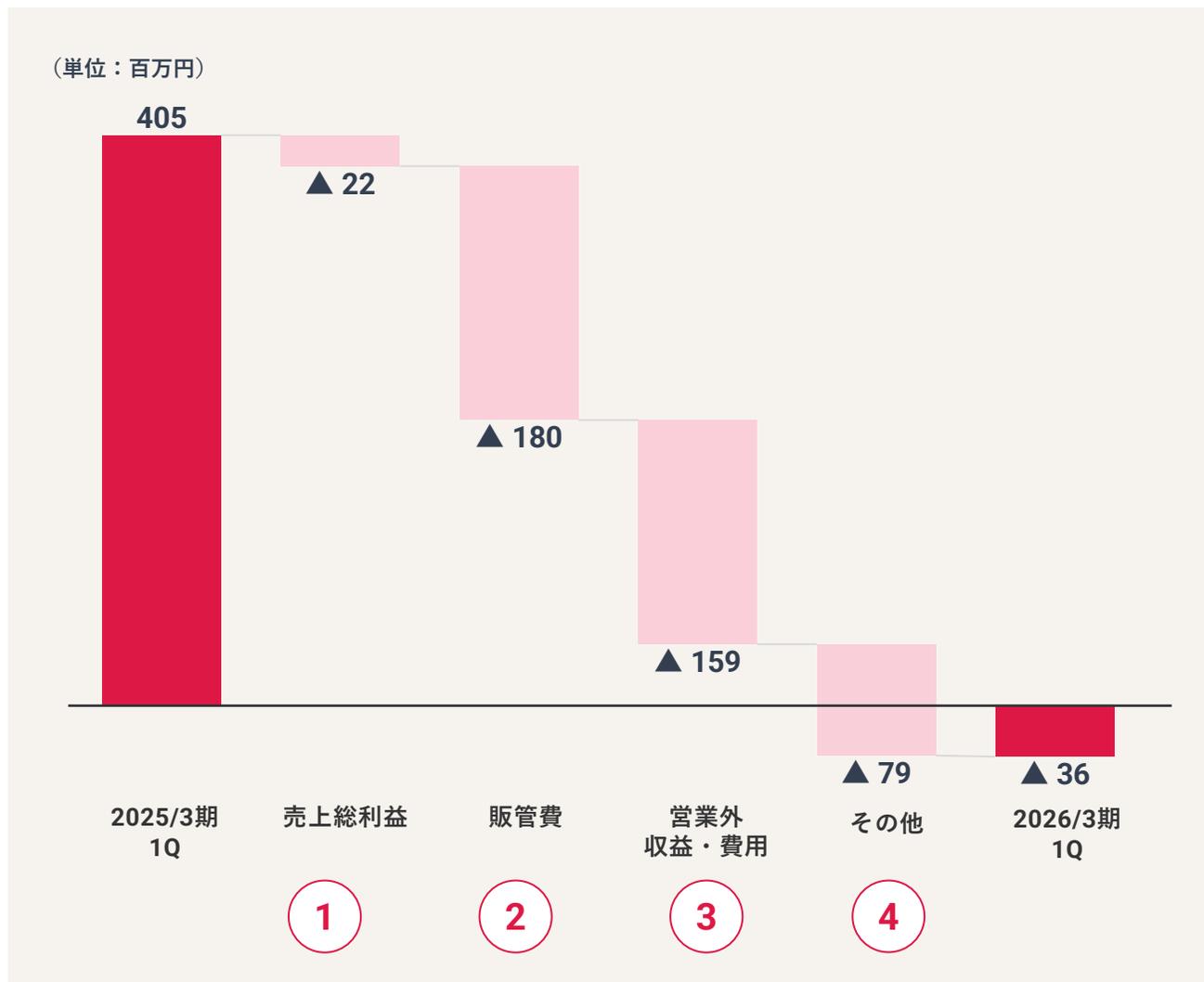
Mipox株式会社 2026年3月期 第1四半期決算説明資料 (証券コード5381)

売上高が前年同期比で5%増加したものの、販売費及び一般管理費の増加や為替差損の発生が主要因で親会社株主に帰属する四半期純利益は赤字に転じ、利益面で前年同期を大きく下回りました。

(単位：百万円)	2025/3期 1Q	2026/3期 1Q	前年同期比
売上高	2,565	2,693	+5.0%
売上総利益	1,063	1,040	▲2.1%
販売費及び一般管理費	776	956	+23.2%
営業利益	286	84	▲70.7%
為替差損益	75	▲80	-
経常利益	382	19	▲94.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	405	▲36	-



*百万円未満切り捨て、業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。



*増減算出後、百万円未満切捨て

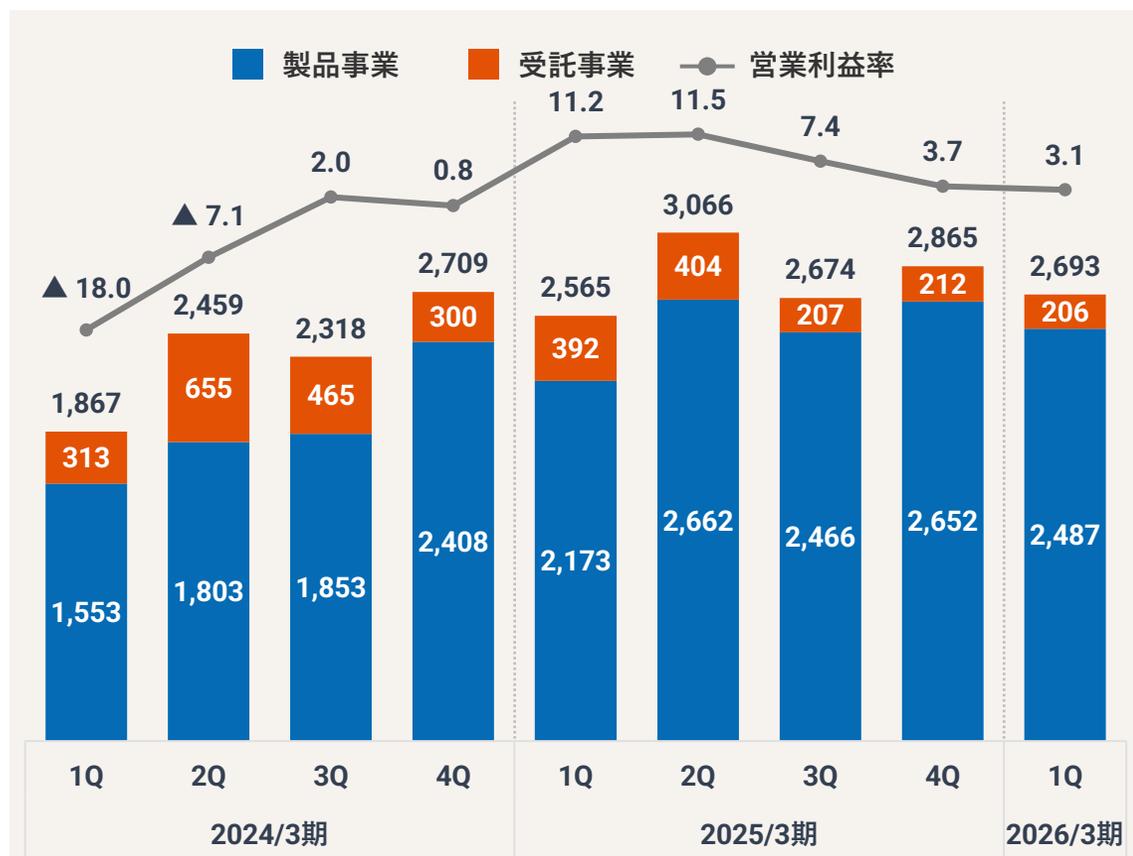
利益増減要因

- ① 売上高は前年同期比で増加しましたが、売上の製品構成差等の影響で売上総利益が減少しました。
- ② 北米向けの輸出関連費用や人件費を中心に販管費が大幅に増加しました。
- ③ 前年同期は為替差益を計上した一方、当期は米ドルに対して円高およびマレーシアリング高となったことにより為替差損が生じた結果、営業外費用が増加しました。
- ④ 法人税等が前年同期比で増加しました。

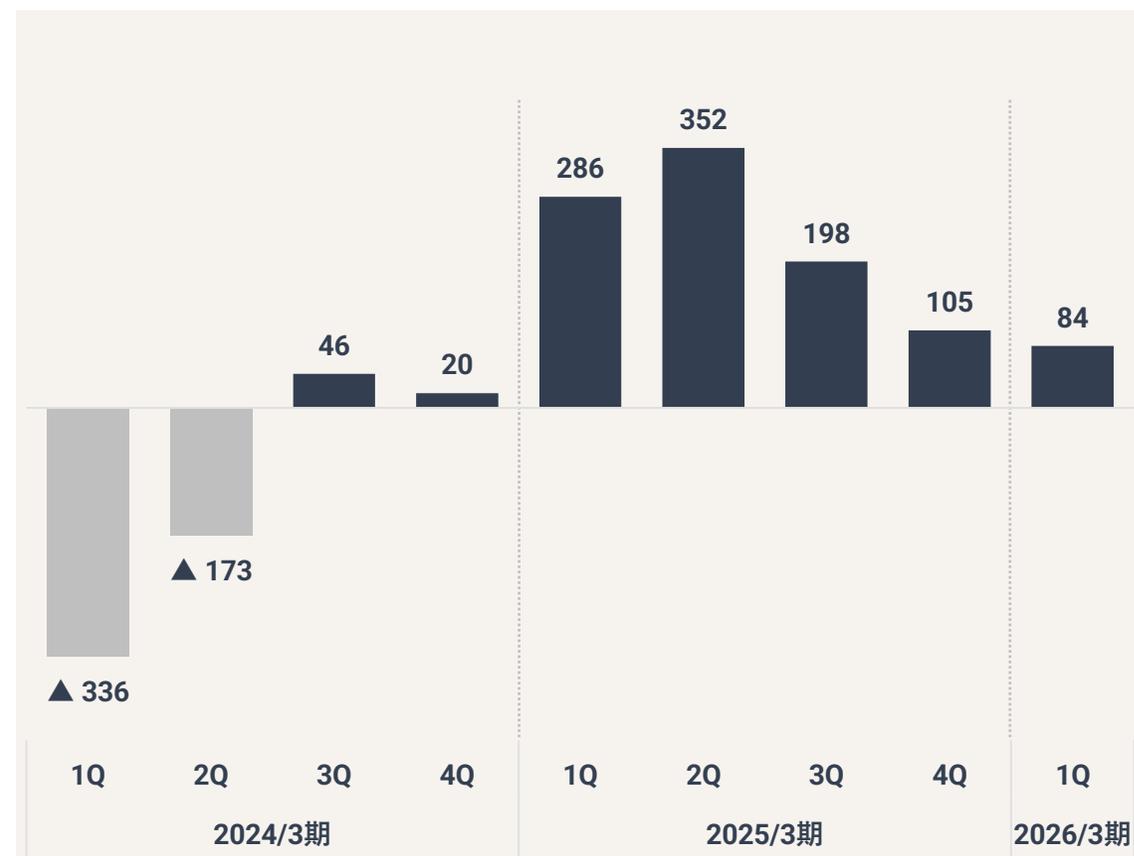
02 四半期業績推移（連結）

売上高は製品事業が前期に引き続き堅調に推移している一方で、受託事業は前期第3四半期から低水準で推移しております。販管費の増加等があり、営業利益は前年同期比で減少いたしました。

売上高・営業利益率（単位：百万円・％）



営業利益（単位：百万円）

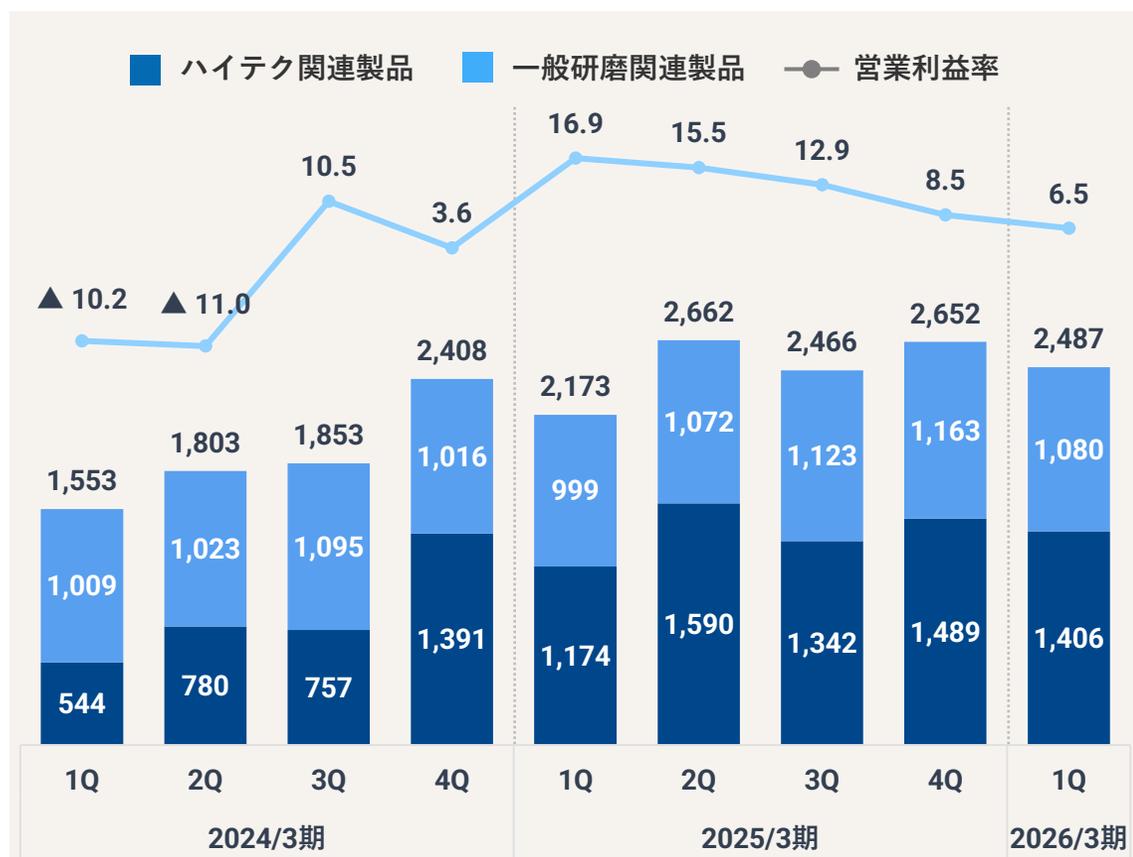


*業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。

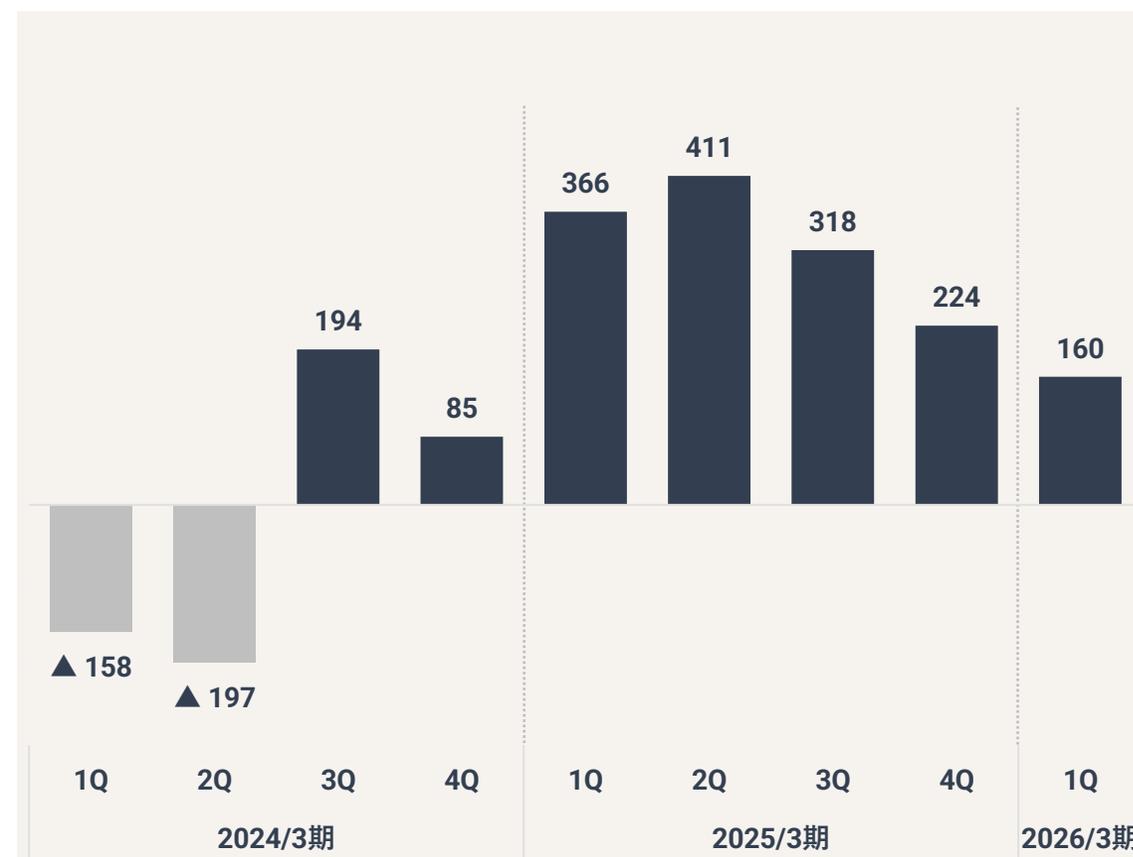
02 四半期業績推移（製品事業）

当第1四半期においてもハイテク関連製品ならびに一般研磨関連製品の売上は安定的に推移いたしました。利益面においては、販管費が増加したことが主要因でセグメント利益が前年同期比で減少いたしました。また、データセンター市場における需要拡大に伴いハイテク関連製品（光ファイバー関連）の供給体制を強化しておりますが、一部で需給逼迫が生じ、緊急対応や納期調整により一時的なコスト増加が発生し、利益を圧迫いたしました。

売上高・営業利益率（単位：百万円・%）



営業利益（単位：百万円）

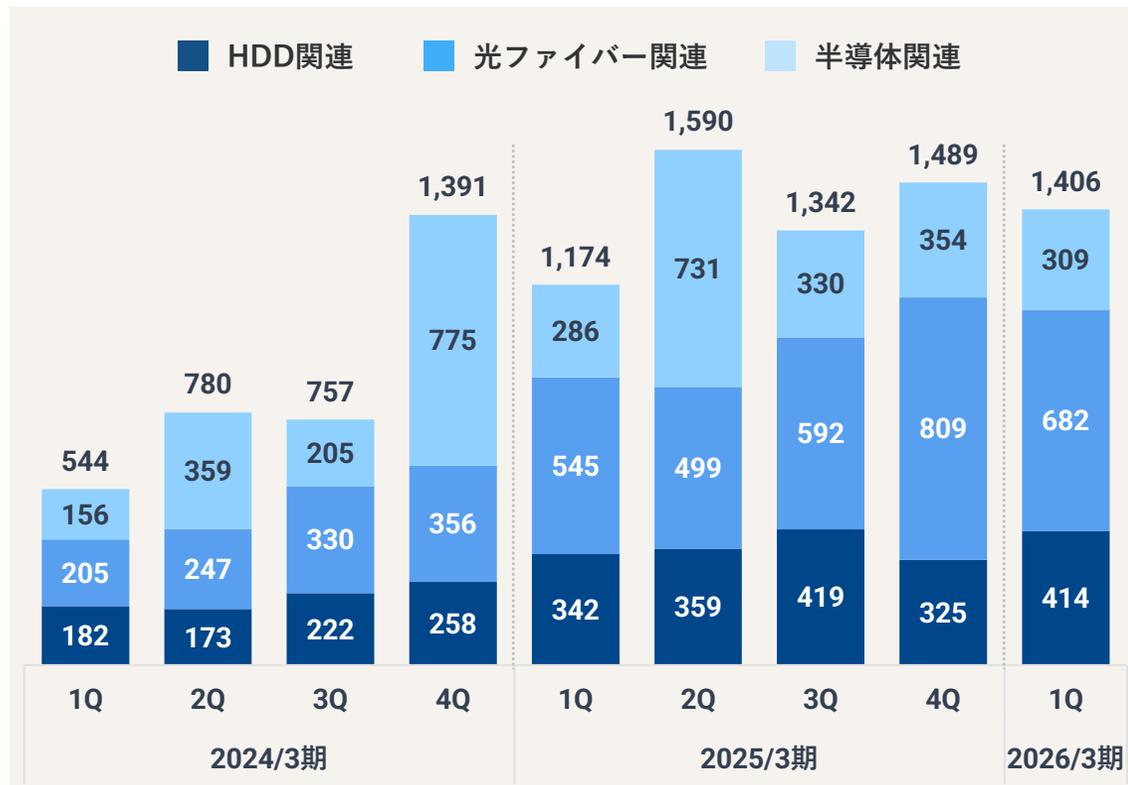


*業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。

02 業績推移（製品事業内訳）

ハイテク関連製品はデータネットワーク分野が依然好調であり、HDD関連および光ファイバー関連の売上高は高水準で推移しています。半導体関連はプローブカードクリーニングシートを中心とした消耗材の売上高が堅調に推移しました。一般研磨関連製品も各用途で売上高が堅調に推移しましたが、自動車関連が一時的に落ち込む結果となりました。

ハイテク関連製品（単位：百万円）



一般研磨関連製品（単位：百万円）

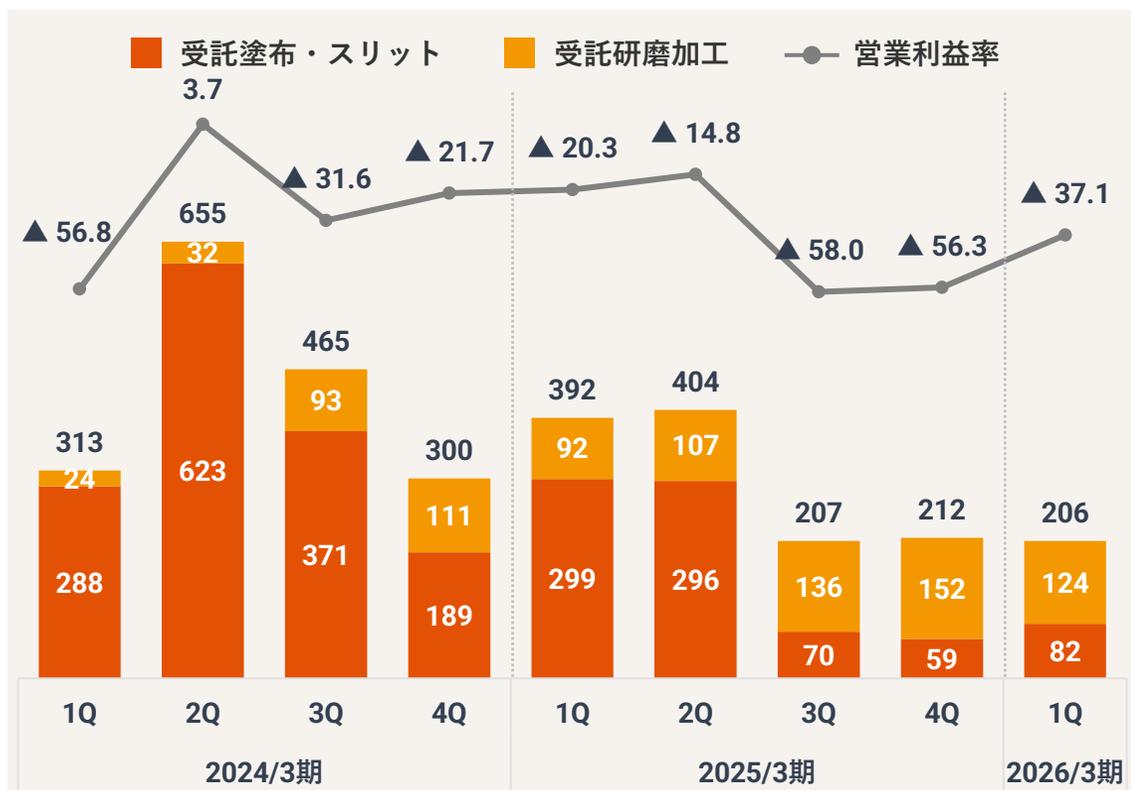


※業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。

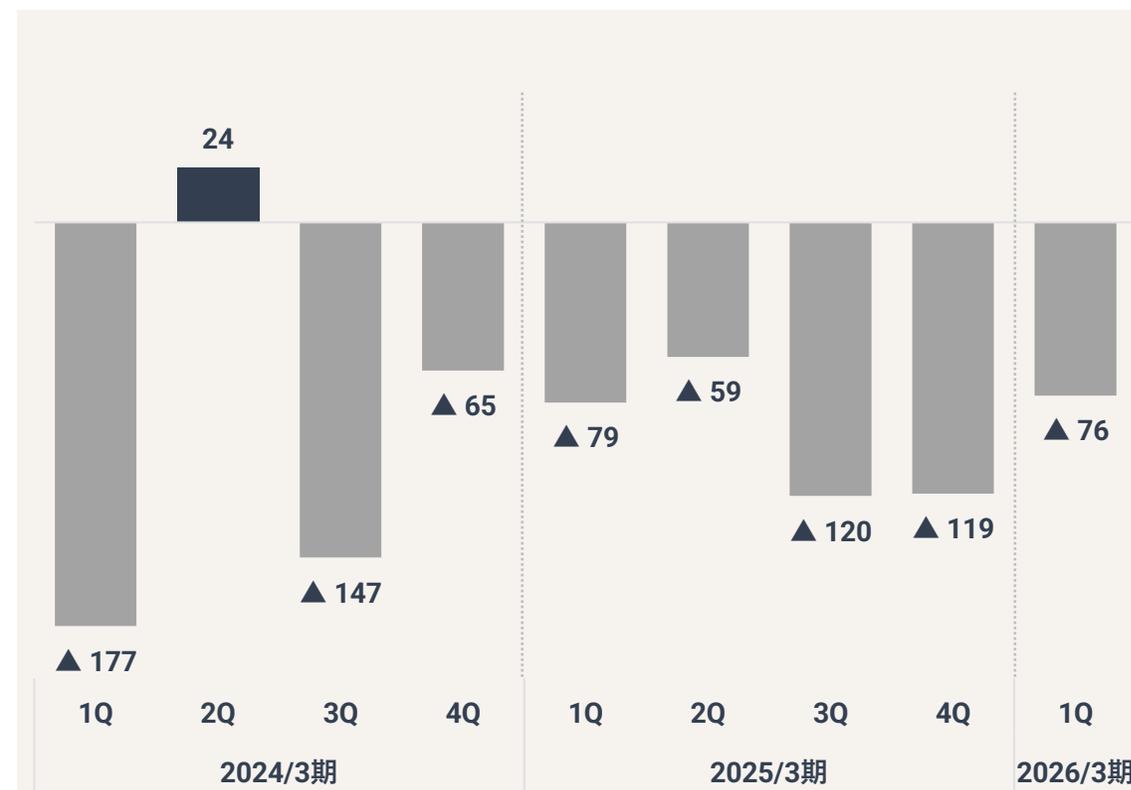
02 四半期業績推移（受託事業）

当第1四半期の売上高は低調に推移いたしました。受託塗布・スリットは量産獲得のための試作案件が中心となり、受託研磨加工は新規受託案件が堅調に推移しました。利益面ではセグメントを超えた人員や装置の共有等による固定費削減があり前期第4四半期から良化したものの、依然営業損失を計上する結果となりました。

売上高・営業利益率（単位：百万円・%）



営業利益（単位：百万円）



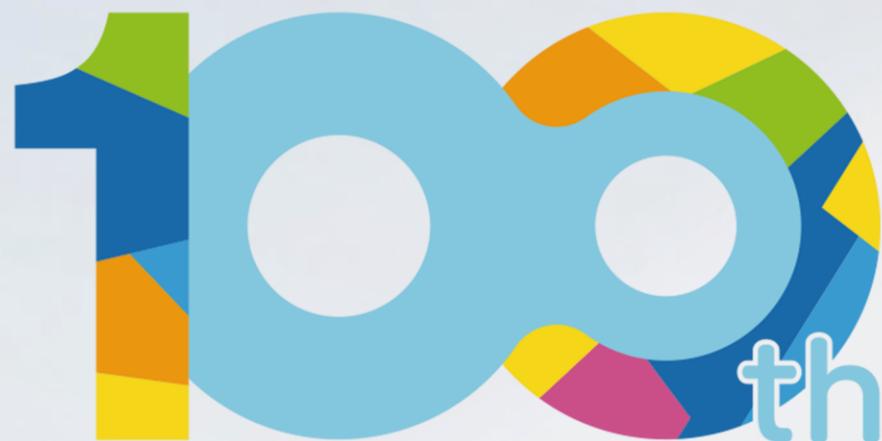
*業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。

(単位：百万円)	2025/3期末	2026/3期 6月末	増減額	備考
流動資産合計	8,465	8,862	+397	
現金及び預金	2,407	2,357	▲50	
売上債権*	2,693	2,770	+76	
棚卸資産	2,924	3,161	+236	
その他	439	574	+134	
固定資産合計	7,465	7,458	▲6	
有形固定資産	6,737	6,744	+7	
資産合計	15,931	16,321	+390	
流動負債合計	5,438	6,380	+941	
支払手形及び買掛金	945	930	▲15	
短期借入金（社債含む）	3,363	4,390	+1,027	短期借入金の増加
その他	133	166	+32	
固定負債合計	2,028	1,752	▲276	
長期借入金（社債含む）	1,857	1,592	▲264	借入金の約定弁済
負債合計	7,467	8,132	+665	
純資産合計	8,463	8,188	▲274	配当金支払い/自己株式の取得
負債純資産合計	15,931	16,321	+390	

*売上債権は受取手形、売掛金、電子記録債権を合計し、棚卸資産は商品および製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品を合計しております。

*増減算出後、百万円未満切捨て

リリース日	該当四半期	タイトル	詳細
2025年5月12日	1Q	商号変更及び定款の一部変更に関するお知らせ	P17 別途資料
2025年8月1日	2Q	株式会社ウジケの全株式取得に関するお知らせ	P18 別途資料
2025年8月1日	2Q	自己株式の取得状況および取得終了に関するお知らせ (会社法第165条第2項の規定による定款の定めに基づく自己株式の取得)	P23 別途資料



1925-2025

挑戦を続ける、100年の力

社名変更のお知らせ

Mipox 株式会社は マイポックス株式会社へ。

当社は2025年11月21日に創業100周年という節目の年を迎えます。これまでの歩みと実績をさらに発展させるべく、2025年10月1日に従来の「Mipox株式会社」から、より発音しやすく親しみやすい「マイポックス株式会社」へと商号を変更いたします。



2025年8月1日をもちまして、株式会社ウジケの全株式を取得し子会社化することとなりました。ウジケが長年培ってまいりました塗工や圧着の技術をもとにした受託事業、バフやパッドの製品事業の継続にあたり、当社は、これまでの事業基盤を尊重し、皆様との信頼関係を大切にしながら、より一層のサービス向上に努めてまいります。

mipox × 株式会社 **ウジケ**



【出資企業概要】

企業名	株式会社ウジケ
所在地	(本社) 〒132-0035 東京都江戸川区平井2-16-9-103 (埼玉工場) 〒344-0136 埼玉県春日部市倉常557-1
事業内容	塗膜研磨用品などの研磨ツールの製造・販売
資本金	1,000万円
設立日	1975年2月

【株式譲渡スケジュール】

2025年 8月1日

株式譲渡日

譲受後の事業内容：
株式会社ウジケが行っていた事業全般

Agenda

01

会社概要

Company overview

02

2026年3月期
第1四半期実績

FY2026 1Q Financial Results

03

通期業績見通し

Full Year Forecast

04

事業内容

Our Business

05

競争力の源泉

Competitive Advantage

06

成長戦略

Growth Strategy

07

Appendix

Appendix

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
2026年3月期予想 (A)	11,000	900	1,000	700
2025年3月期実績 (B)	11,172	942	855	911
増減額 (A-B)	▲172	▲42	+145	▲211
増減率	▲1.5%	▲4.5%	+16.9%	▲23.2%

*増減算出後、百万未満切捨て

【コメント】

- 2026年3月期は製品事業ではハイテク関連製品の売上高が引き続き堅調に推移する見通しですが、米国の通商政策など先行き不透明な要素があり慎重な見極めが必要であると認識しております。受託事業では受託研磨加工分野でCMP案件を中心に販売増を見込んでいる一方、受託塗布・スリットは量産案件の獲得が厳しく引き続き先々に向けた試作案件が中心となる見通しです。以上により、2026年3月期の売上高は対前年比で1.5%減少の110億円を見込んでおります
- 引き続きECを活用した販売チャネルの多様化や製造DXでの工場の自動化・省力化等を通じ、コストの構造的な改善を進めてまいります。また、将来に向けた人材育成をはじめとする人的資本への投資を強化してまいります。結果、2026年3月期の営業利益は9億円を想定しています。前期に引き続き受取賃借料の計上を見込んでおり経常利益は10億円、親会社株主に帰属する当期純利益は7億円を予想しております

米中関係や米国による関税措置など、依然として不透明な外部環境要因が残存していることから、市況全体の本格的な回復には慎重な見極めが必要であると認識しております。今後もこれらの動向を注視しつつ、リスク管理の徹底を継続してまいります。

ハイテク関連製品



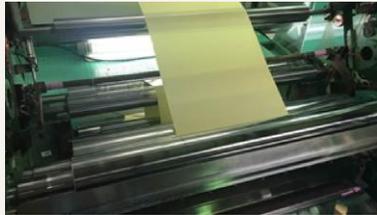
- 米国の光ネットワークインフラ整備や生成AI関連のデータネットワーク設備強化の動きから、光ファイバー関連製品が好調な状況が継続する見通しです。高まる需要に対し生産、及び供給体制の改善に対応してまいります。需要拡大に伴う緊急対応や納期調整によるコスト増加については契約の見直しおよび増産対応を進めることで、8月以降、順次解消される見通しです。
- HDDの在庫調整が一巡し、汎用データセンター向けの投資も回復傾向にあります。今後もこの市場環境が継続する見込みであり、引き続き安定した成長が期待されます。
- 半導体関連製品では工場稼働率は依然低水準ながら、生成AI向け半導体需要の拡大によりプローブカードクリーニング製品の販売は増加傾向にあり、売上は前期並みを維持する見通しです。

一般研磨製品



- 建設業界をはじめとする各産業は、物価や景気動向に対応した政策の影響を受けながら、市場全体の動きが形作られていくと見ています。自動車業界については、在庫調整を進めつつ状況を注視し、上半期中には一定の方向性が見えてくる見通しです。
- 原材料およびエネルギーコストについては、依然として高水準での推移が見込まれており、厳しい環境が続くと予想されます。当社としては、引き続き顧客価値を最優先としながらも必要に応じて価格転嫁を含む柔軟な対応を検討してまいります。
- IH粉体塗装技術を活用した研磨製品の試作ラインの立ち上げが完了しました。今後は、北杜事業所と福山事業所との連携を一層強化し、データベースの構築に向けて整備を進めてまいります。今期は製造のプロセスの確立を目指して取り組んでまいります。
- 営業拠点については、地域ニーズや事業展開に応じて、必要に応じた開設を柔軟に検討してまいります。当社では、これまでのIT投資により営業活動に必要な情報がデータベース化されており、営業担当者がスムーズかつ的確に対応できる体制を整えていることが強みです。こうしたデジタル基盤を活用し、ECサイトの拡充も目指してまいります。

受託塗布・スリット



- 量産の獲得は依然として難しい状況が続いていますが、試作の受注は増加傾向にあり、特に中・大型案件や半導体関連の試作が増えています。また、半導体関連の試作の取り扱いも増加しており、今後の成長に向けた足掛かりとなる可能性があります。
- 新規顧客開拓も展示会出展などを通じて進展しており、試作案件や問い合わせは増加傾向にあります。一方で、案件ごとの進捗にばらつきがあり、量産開始は2027年3月期以降になる見通しです。当面は試作対応が中心となる予定です。
- 試作案件が中心で推移していることから、一部の工程では工場ラインに余裕が生じております。この空きリソースを既存製品の製造に活用することで、稼働率の向上と収益の安定化に努めています。

受託研磨加工



- 高付加価値CMP案件の受託拡大を見据え、前期比で販売増を見込んでおります。それに伴い、CMP案件の受け入れ体制を強化すべく、測定機、CMP装置、洗浄機等に対する計画的な設備投資を実施する予定です。
- 2026年3月期において量産に直結するケースは限定的ではあるものの、一部の案件では継続的な加工および数量の増加が見込まれております。
- 注力している先端材料の高難度加工技術の実績積上げにより、GaN基板、ダイヤモンド基板など次世代パワーデバイス用基板の研磨受託加工が引き続き堅調で増加が見込まれます。
- 従来の研磨加工に加え、接合や洗浄など前後工程を含めた一括受託体制を整備し、製造プロセス全体をカバーするファウンドリーサービスの展開を推進しています。研磨に加えた接合加工やコアリング加工に対応するとともに、加工パートナーとの連携を通じて、一貫した受託体制を構築。前後工程を含めた包括的な加工受注に注力してまいります。

当社は将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保するとともに、株主の皆様に対しては安定配当を目指しつつ、業績等を勘案して、適正な利益還元に努めております。

配当

2026年3月期は配当については、通期業績の確定を受けての判断になりますが、期末配当10円を予定しております。

	年間配当
2024年3月期	無配
2025年3月期	10円
2026年3月期	10円（予想）

自社株買い

資本効率の向上、および株主還元の充実を図るため、2025年5月15日開催の取締役会における決議に基づき2025年5月16日から2025年7月31日の期間で自己株式の取得を実施いたしました。

取得株式総数	当社普通株式395,800株(上限:50万株)
株式取得総額	199,971,700円(上限:2億円)
取得期間	2025年5月16日から2025年7月31日まで
取得方法	東京証券取引所における市場買付
ご参考	2025年3月31日時点の自己株式の保有 発行済株式総数（自己株式を除く）：14,422,368株 自己株式数：29,552株

Agenda

01

会社概要

Company overview

02

2026年3月期
第1四半期実績

FY2026 1Q Financial Results

03

通期業績見通し

Full Year Forecast

04

事業内容

Our Business

05

競争力の源泉

Competitive Advantage

06

成長戦略

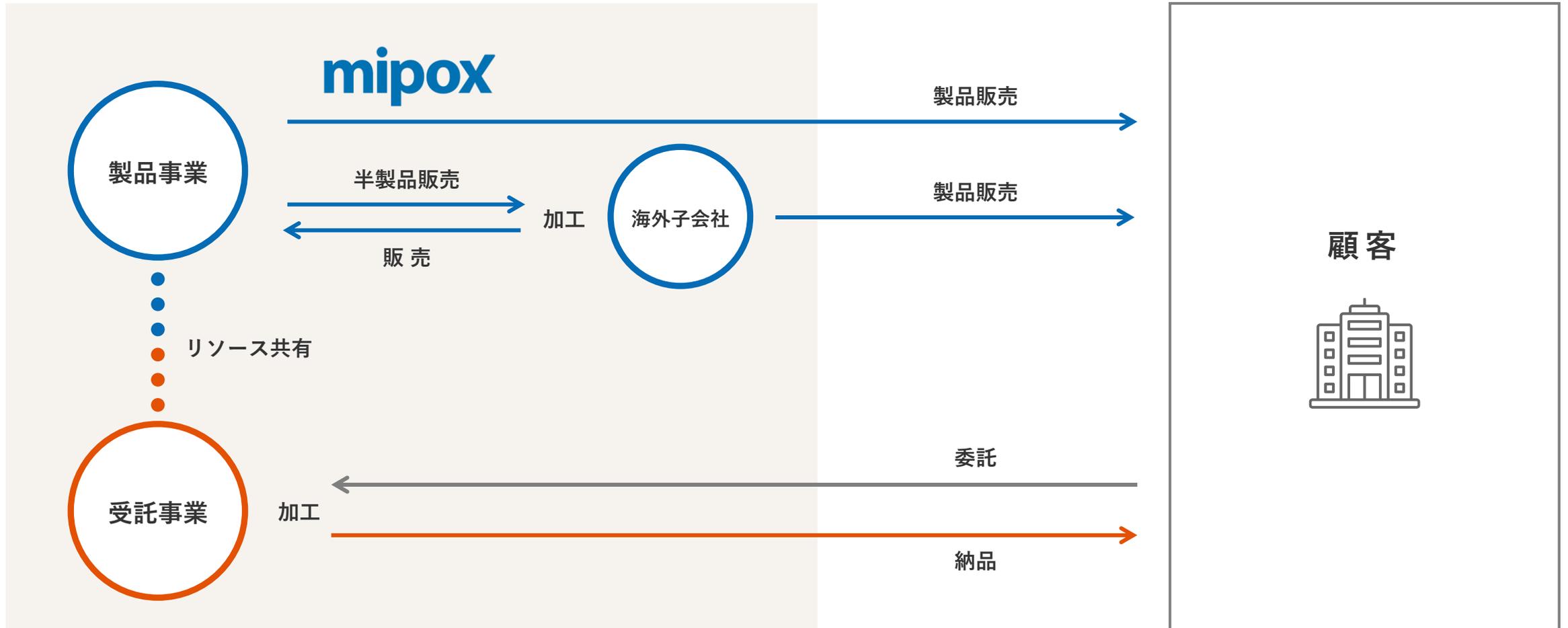
Growth Strategy

07

Appendix

Appendix

海外工場での加工を経ることにより、日本のみに工場が存在するよりも様々な製品を効率よく製造しております。海外向けに販売も行っております。顧客からの委託を受けて加工も行っており、自社製品のみならず顧客の要望に合わせたサービス・製品も提供しております。



製品事業

研磨材の開発・製造・販売を行っております。
超精密研磨から一般研磨、装置や反射材など、世界中の幅広い用途に向けて当社製品を提供しております。



研磨フィルム



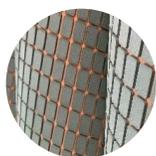
液体研磨剤



研磨関連製品



研磨布紙製品



研磨砥石製品



研磨周辺機器



検査装置



再帰性反射材
(Ref Lite)



ヤスリ製品



IH粉体塗装

受託事業

【受託研磨加工】
半導体ウェーハをはじめとする材料を顧客より預かり、当社が保有する設備（研磨装置、洗浄機、検査装置）と独自の研磨材を用いて、要望に沿った研磨加工を提供しております。

【受託コーティング・スリット】
顧客の基材（フィルム等）や塗料材を預かり、当社が保有する設備（調合、コーティング、スリット）を用いてフィルム化、裁断を行っております。



塗布製品



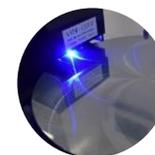
研磨加工



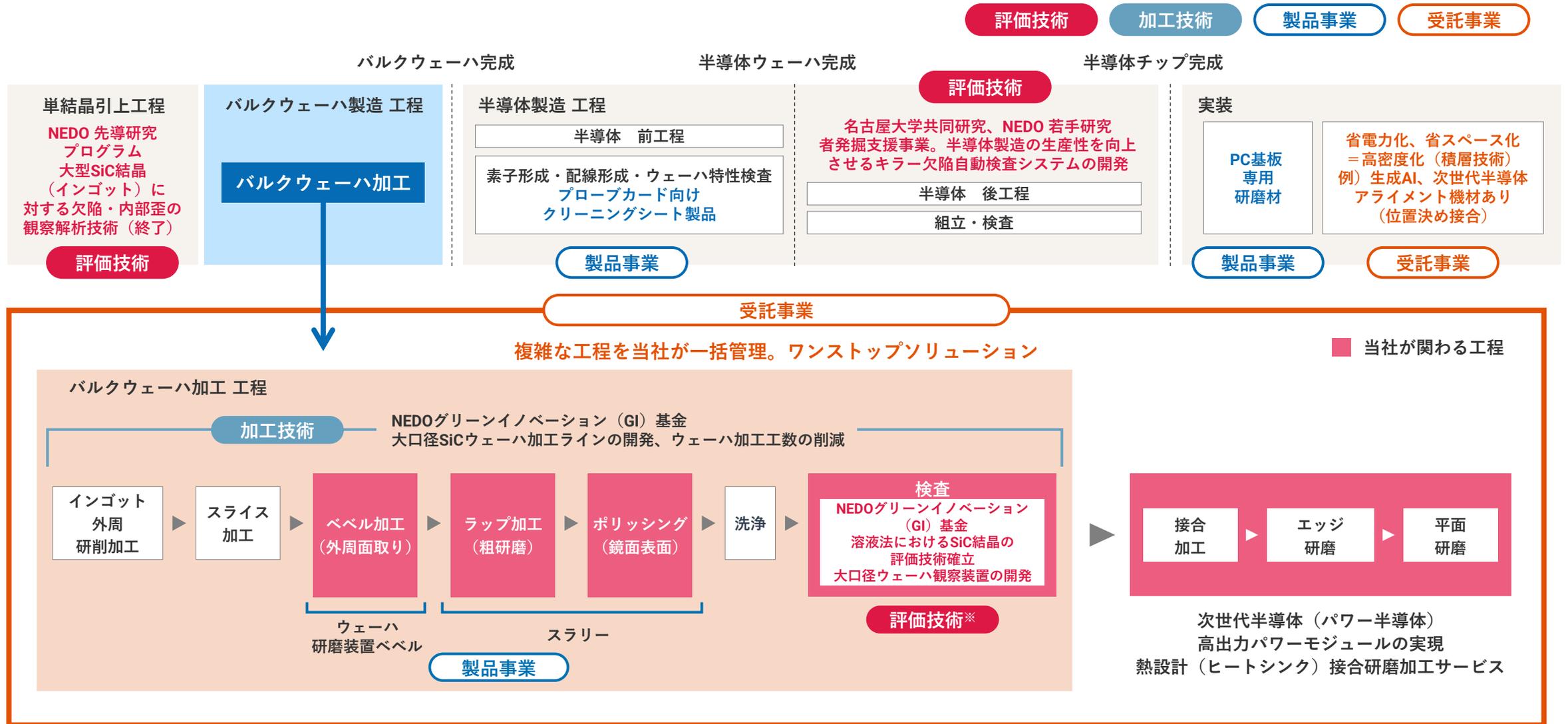
スリット加工



常温接合加工



検査



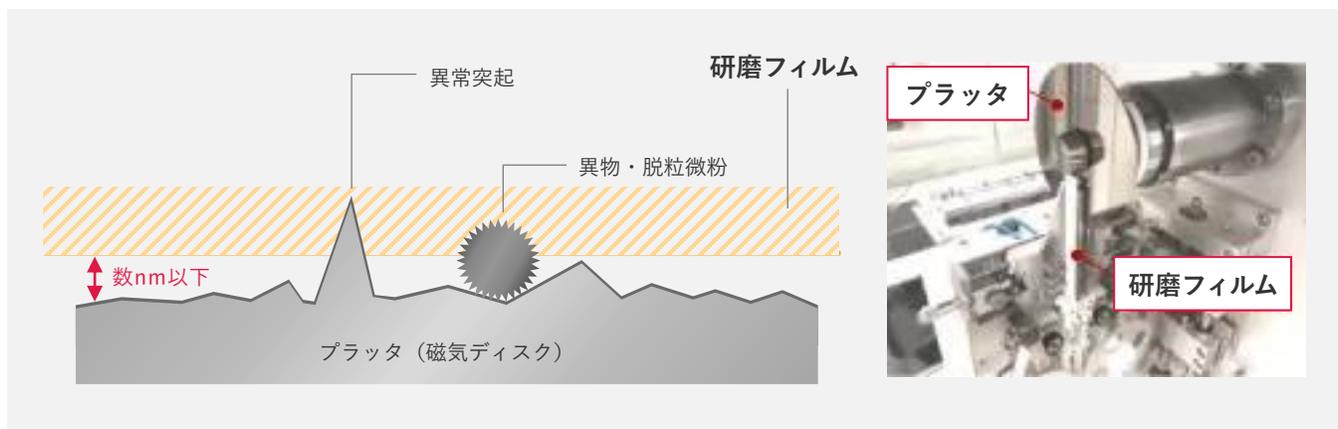
*NEDOグリーンイノベーション基金での支援事業は社会実装までは利益を上げることが出来ず、収益化は社会実装後になります。

ハードディスクドライブ (HDD) 内部のプラッタと呼ばれる磁気ディスクの表面研磨に当社製品を使用。ヘッド部に接触しないよう、1000分の1 μ m程度の突起や異物を除去します。各ハードディスクメーカーの仕様に応じたカスタマイズ製品を製造・供給しています。



ハードディスクドライブ (HDD) の研磨

当社の研磨フィルムは、独自のバインディング技術とスリット技術により、研磨フィルムから砥粒や異物がディスク上に残らないよう設計されています。この高度な技術は非常に高い難易度を誇り、他社が模倣することが難しい当社の競争力の源です。



Mipoxの強み

Strength

01 カスタマイズ可能

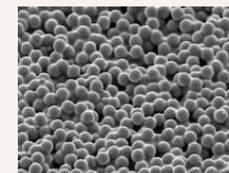
「塗る」技術の活用により、研磨層表面の形や大きさ、溝の深さ・粗さ等、各社に合わせた研磨フィルムを提案可能です。



Strength

02 球状で傷をつけない

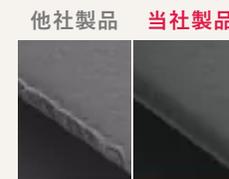
「塗る」技術の活用により、フィルムに球状の研磨材を均一に塗布。表面突起がないため、ディスクに傷をつけずに異物の除去が可能です。



Strength

03 端面まで高精度

「切る」技術の活用により、研磨フィルムの高精度な端面を実現。研磨時の傷の軽減など、品質向上に寄与しています。



ガラス製のファイバー線と、それを保持するフェルール（酸化ジルコニウム製）を研磨することで、接触面を滑らかにし、光信号の損失を最小限に抑えることができます。これにより、通信の質が向上します。先端に付着した樹脂の除去から、鏡面化までを当社の製品で行います。

単芯タイプ 光ファイバーの研磨工程例

1本の光ファイバー線で構成。安価で長距離通信が可能。一般消費者向けネット通信（テレコム）等に使用される。



多芯タイプ 光ファイバーの研磨工程例

12~24本の光ファイバー線で構成。高価で付加価値が高い。短距離通信限定+大容量通信が可能でデータセンター等に使用される。



Mipoxの強み

Strength

01 環境負荷を低減

廃液を排出するスラリーに代わり植毛フィルムを使用することで、廃液問題の解消と環境負荷の低減を実現。環境基準が厳格な国々において、当社の製品は優位性を発揮します。

Strength

02 研磨材メーカーの製品力

研磨材メーカーとして、基材・砥粒・バインダーの多様な組み合わせにより、最適な製品を提供可能です。

Strength

03 研磨ニーズへの対応力

精密業界で培った長年のノウハウを活かし、研磨条件の最適化を提案し、さまざまな要求に柔軟に対応します。

半導体製造工程の中の、主に前工程であるウェーハ検査工程で使用される検査用器具「プローブカード」のクリーニングシートを提供。多くの半導体関連メーカーへの提供実績があり、幅広い製品ラインナップで、あらゆるタイプの針先クリーニングに対応いたします。

プローブカード

ウェーハ検査用「プローブカード」の針先研磨

「プローブカード」とは、半導体のウェーハ検査工程で使用される検査用器具です。プローブ針からウェーハに電気を流し、正常に動作するか検査を行います。このプローブ針の汚れのクリーニング及び先端形状の保持に、当社のクリーニングシートが使用されております。

プローブカード

プローブ針

ウェーハ

針先クリーニング前

針先クリーニング後



Mipoxの強み

Strength

01 針を摩耗せず汚れを除去

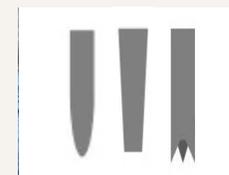
当社のクリーニングシートは針を摩耗せずに汚れの除去が可能です。高価なプローブカードの寿命を延ばすことに寄与します。



Strength

02 豊富な製品ラインナップ

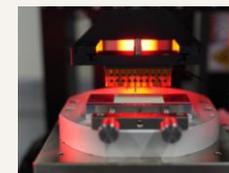
プローブ針には丸・フラット・クラウン等、様々な形状があり、それぞれの形状に合わせたクリーニング製品を提供可能です。



Strength

03 様々なテスト環境に対応

低温から高温まで、様々なテスト環境に対応した製品を取り揃えております。



Agenda

01

会社概要

Company overview

02

2026年3月期
第1四半期実績

FY2026 1Q Financial Results

03

通期業績見通し

Full Year Forecast

04

事業内容

Our Business

05

競争力の源泉

Competitive Advantage

06

成長戦略

Growth Strategy

07

Appendix

Appendix

1 事業間で発揮されるシナジー効果

2 顧客の要望に合わせた高品質な製品の提供

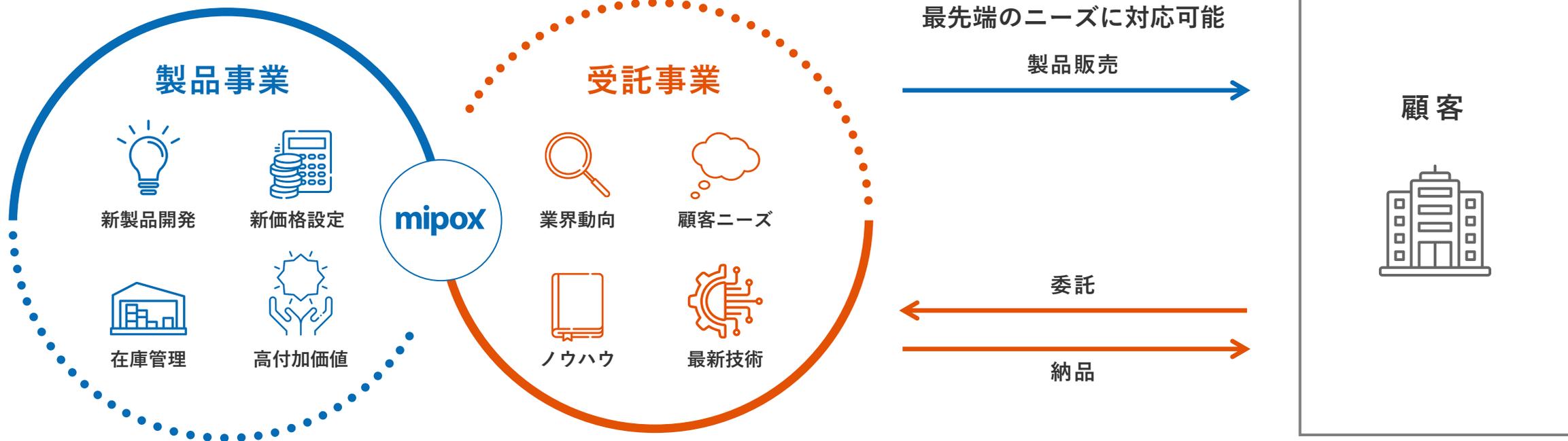
3 スマートファクトリー



製品事業と受託サービス事業では設備や人的リソースを共有しており、技術やノウハウの蓄積に役立っております。
蓄積された技術やノウハウは高付加価値のある製品やサービスの創出に活かされ、顧客の多様な要望を実現する源になっております。

製品事業と受託事業の共有型リソース

設備や人的リソースの共有



好循環成長モデルの実現

製品製造と受託加工ができるため、顧客の理想に合わせた製品の作成、きめ細やかなサービスの提供が可能です。
各製造工程において異なる取引先との煩雑なやりとりを当社がワンストップで提供しており、顧客の要望が1つの窓口で完結いたします。

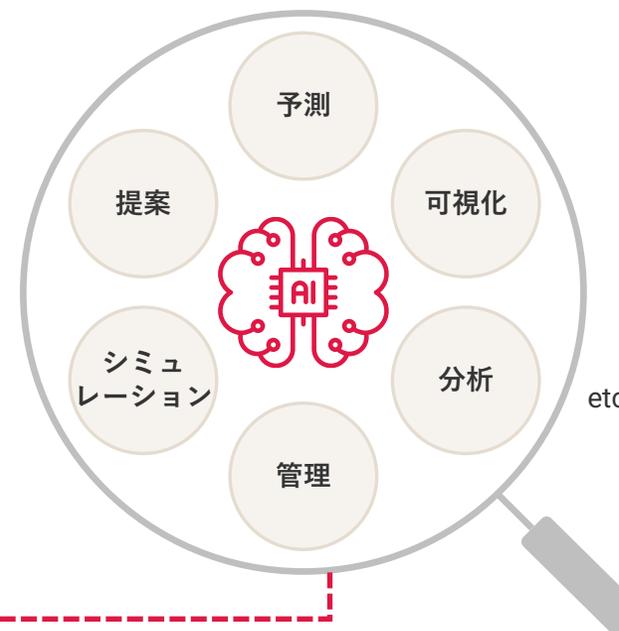


IoTとAIを活用し連携させることで、可視化しづらい部分の改善に役立つデータを収集しております。工場のDX化により、さらなる効率化・高品質化を目指します。

IoT あらゆる機器を連携させ、様々なデータを収集・蓄積



AI IoTで集めたデータを分析して課題を見える化



業務プロセスの改革

品質・生産性の向上

Agenda

01

会社概要

Company overview

02

2026年3月期
第1四半期実績

FY2026 1Q Financial Results

03

通期業績見通し

Full Year Forecast

04

事業内容

Our Business

05

競争力の源泉

Competitive Advantage

06

成長戦略

Growth Strategy

07

Appendix

Appendix

1 製品・受託事業領域の拡張



2 鹿沼事業所の量産体制構築



3 産官学プロジェクトへの参画



当社の基幹技術「塗る」「切る」「磨く」*の事業領域を拡大するための打ち手として、M&Aを実施してまいりました。今後も製品・受託事業領域の拡張を行ってまいります。

【M&Aに対する基本的な考え方】

基幹事業とシナジー効果のある企業や事業に対しM&Aを実施



【これまでのM&A実績】

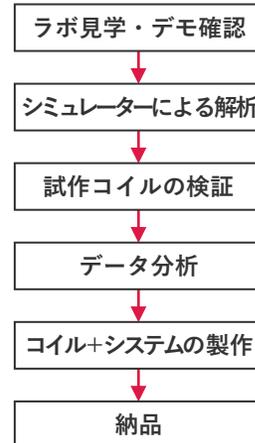
 <p>Ref Lite Color Your Style.</p> <p>反射材製品、 精密研磨フィルム等の 製造・販売 (2015年)</p> <p>塗る</p>	 <p>Tikken</p> <p>研磨布紙及び その他研磨材製商品の 製造・販売 (2016年)</p> <p>塗る 切る 磨く</p>	 <p>ORIENT</p> <p>フレキシブル・ 超高品質なヤスリの 開発・製造 (2021年)</p> <p>磨く</p>	 <p>MISUMI</p> <p>研磨ディスクの 製造・販売 (2022年)</p> <p>塗る 磨く</p>
 <p>スガ コーディングス</p> <p>有機溶剤不使用の コーティング事業 (2023年)</p> <p>塗る</p>	 <p>OOKUBO IRON-WORK</p> <p>金属パーツの 精密研磨加工 (2023年)</p> <p>磨く</p>	 <p>株式会社 ウシケ</p> <p>塗膜研磨用品などの 研磨ツールの 製造・販売 (2025年)</p> <p>塗る 磨く</p>	

多様化するニーズに、迅速且つ的確に対応できる体制の構築

当社のコア技術の一つである「塗る」に関連する技術であるIH粉体塗装技術を利用し事業展開を図っていきます。鹿沼事業所に開設した実証実験ラボの積極的な活用に加えて、IH粉体塗装技術を活用した自社製品の開発に向けて設備の導入を進めています。

【実証実験ラボのIH粉体塗装システム】

特許取得済 (特許第7560971号)



ラボで事前検証が可能に

新技術に対する顧客の不安を払拭し、スムーズなシステム導入に寄与



実証実験ラボ見学の様子

2023年3月に譲り受けた株式会社スガ コーティングのIHを活用したコーティングラインの企画・設計・開発・販売を展開し、溶剤不使用のコーティング技術の導入支援を行っています。2023年10月に鹿沼事業所に開設した実証実験ラボを積極的に活用しながら、製造工程の中で最もエネルギーを要する設備であるガス熱風乾燥炉を、IHを利用した電気加熱方式であるIH粉体塗装システムに置き換えることによって省エネ、省スペースを実現できる塗装工程ラインをご提案しております。

IH粉体塗装技術の活用体制強化

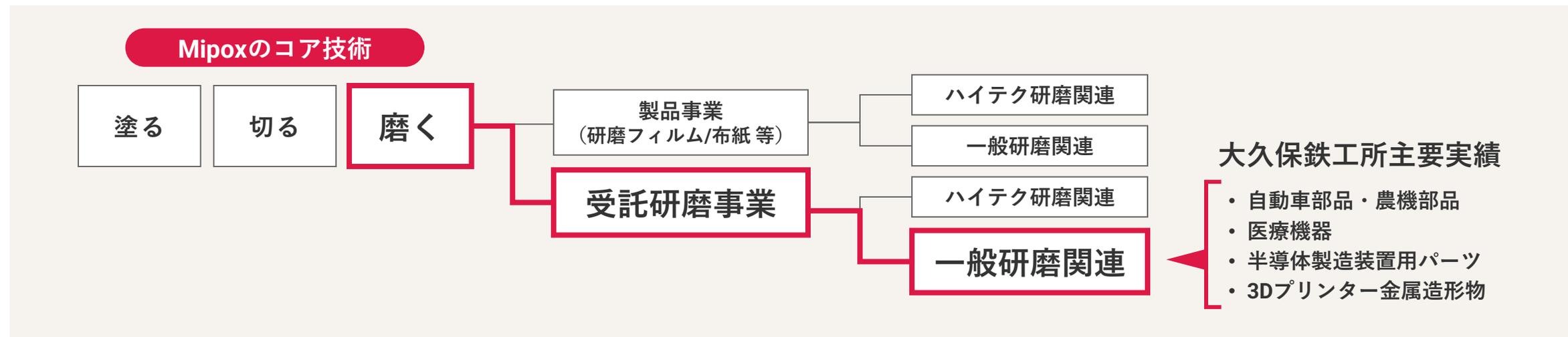


福山事業所に加え、北杜事業所でもIH粉体塗装システムの導入を進め、実証実験ラボや各事業所で得られた技術・ノウハウを活用して自社製品の開発を進めてまいります。



IH粉体塗装技術で製造した研磨製品

2023年10月31日に大久保鉄工所をM&Aにて取得、これにより当社の主要事業すべてにおいて一般研磨用途の参入が可能となり、さらなる対象市場の拡大と新規顧客の獲得が期待されます。



【当社とのシナジー】

mipox



OOKUBO IRON-WORK

- 01 鹿沼事業所に近く、人材の融通+スペース拡張（投資）が容易
- 02 高い技術競争力と収益性
- 03 材料仕入先と販売先との強いパイプライン（研磨布紙業界と大手自動車部品メーカー）

【今後の展望】

- 受託研磨事業の対象市場拡大（自動車・農機・医療・3Dプリンター業界など）
- Mipoxの営業ネットワークを活用した新規顧客の獲得



2023年4月より本社を東京オフィスから鹿沼事業所に移転し、本格稼働を開始いたしました。
今後、計画的に人員・設備・機械の増強を行いながら、更なる生産能力の拡大に努めてまいります。

【鹿沼事業所】

敷地面積：約60,000㎡
延床面積：約46,000㎡

取得日
2022年4月1日

取得目的

- ・ 受託事業の生産能力拡大
- ・ 事業成長のための場所確保
- ・ BCPの観点から生産体制のリスク分散



受託研磨加工

スリット工程

塗布工程

環境配慮設備

ダイカット工程

物流

鹿沼事業所の稼働状況

- ・ 受託塗布・スリットの稼働を開始
- ・ タイ子会社、京都工場からの生産移転
- ・ (株)スガ コーディングスのIH塗装事業の稼働開始
- ・ 東の物流拠点としての機能を集約
- ・ 使用面積増加も可能（未使用エリアは他社へ貸与中）

研磨ラボの活用

- ・ 顧客と一体で研磨プロセス、製品開発を進められる体制を構築し、初期ニーズの把握を行い、付加価値が高く迅速な製品提供を展開予定



3つのNEDOプロジェクトに参画しております（うち1プロジェクトはすでに終了）。
加工技術と評価技術の確立においてさまざまな組織と協力し、国主導のプロジェクトを進めております。

PROJECT 01

NEDOグリーンイノベーション基金事業 — 次世代デジタルインフラの構築 —

オキサイドを幹事会社として（株）UJ-Crystal、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学、アイクリスタル株式会社、国立研究開発法人産業技術総合研究所が参画

- 最初の2年の委託事業を当初想定通りの成果で終了し、本年度から助成期間に移行
- 今期はパイロットライン各装置の立上げ・工数削減・シミュレーション技術の構築を目指し、検査装置の量産化検討を実施

加工技術

大口径SiCウェーハ加工ラインの開発
8インチ対応SiCウェーハ加工、パイロットラインの構築

ウェーハ加工工数の削減
加工シミュレーションの検討と削減工程候補の抽出

評価技術

溶液法におけるSiC結晶の評価技術確立
溶液法SiCに適した光学系の最適化とそれに基づく装置設計

大口径ウェーハ観察装置の開発
8インチウェーハに対応した装置使用の検討と設計

PROJECT 02

NEDO官民による 若手研究者発掘支援事業

名古屋大学（原田俊太准教授）

- デバイスメーカーとの連携によりデバイス不良との相関を確認し、デバイスキラー欠陥検出もしくはウェーハ品質スクリーニングが可能な量産装置の構築を目指す
- 偏光観察技術の進捗はSiCパワーデバイス製造における品質管理と生産性の向上に貢献しています

評価技術

半導体製造の生産性を向上させる
キラー欠陥自動検査システムの開発

[2023年8月論文発表](#)

評価技術

パワーデバイスSiCウエハの偏光観察
による結晶欠陥評価技術

[2024年11月論文発表](#)
[2025年3月論文発表](#) (NEW)

PROJECT 03

NEDOマテリアル革新技術 先導研究プログラム

電力中央研究所・名古屋大学（宇治原徹教授）・理化学研究所

- 2022度末に終了し、製品化に向けた開発を継続

評価技術

大型SiC結晶に対する欠陥・
内部歪の観察解析技術

SiCインゴット検査装置の開発

2022年度末
終了

カーボンニュートラルの実現に向けてエネルギー構造や産業構造の転換、大胆な投資によるイノベーションの創出が必要とされています。これまでの社会の延長にない飛躍的な目標を達成するため創出された、グリーンイノベーション基金のプロジェクトに当社が参画しております。

【NEDO※1グリーンイノベーション基金】

- ・ 日本政府が主導する「2050年カーボンニュートラル」宣言を達成するための基金
- ・ 事業予算2兆円
- ・ カーボンニュートラルに向けた研究開発、実証から社会実装に取り組む企業に最長10年間支援

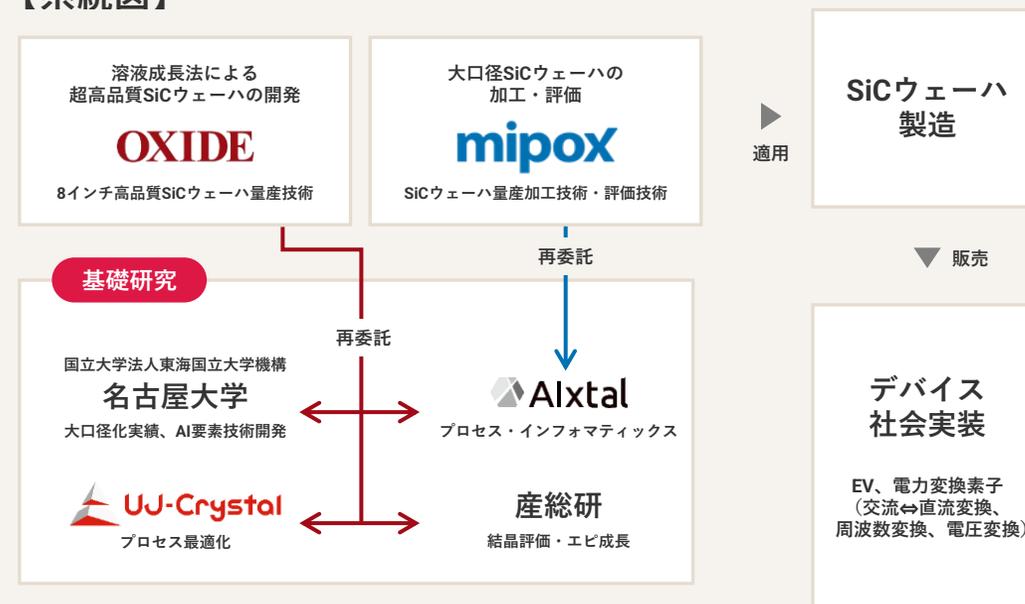


※1：国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

【プロジェクトの目的】

超高品質・8インチ・低コストSiCウェーハ開発・販売

【系統図】



Agenda

01

会社概要

Company overview

02

2026年3月期
第1四半期実績

FY2026 1Q Financial Results

03

通期業績見通し

Full Year Forecast

04

事業内容

Our Business

05

競争力の源泉

Competitive Advantage

06

成長戦略

Growth Strategy

07

Appendix

Appendix

変わることを忘れない 『100年ベンチャー』

当社は1925年にドイツ・レイポルト商館の子会社として創業し、輸入した顔料を販売する傍ら主に出版物に使われる色箔の製造を生業としておりました。1960年代後半よりこの色箔を製造する中で培った「塗る」技術、それを裁断する「切る」技術を基に、精密部品の製造工程事業に使用される研磨フィルムを開発し、「塗る・切る・磨く」の3つのコア技術を確立いたしました。

精密研磨材専門メーカーとして発展を経て、2000年初頭からはコア技術である『塗る』をサービスとして提供するエンジニアリングサービス（受託塗布）を開始いたしました。創業来の危機である2008～2010年を乗り越えたあとは、『磨く』をサービスとして提供するウエハープロセス（受託研磨）を立ち上げ、「塗る・切る・磨くで世界を変える」に取り組んでまいりました。2016年には研磨布紙メーカーである日本研紙を仲間に加え、製品事業のラインナップの拡充を進めました。

創業から間もなく100年。事業を長く続けていくために、急速に変化するテクノロジーや世の中の価値観を敏感にとらえながら、自らも変化に順応していくことが求められます。こうした時代のニーズに対応するため、わたしたちが培ってきたコア技術をさらに高めながら、新しい事業にも積極的にチャレンジし、世の中に必要とされる製品やサービスを通じて世界のお客様に選ばれるパートナーを目指してまいります。

変わることを忘れない、『100年ベンチャー』を目指してこれからも変化し続ける集団でありつづけます。

今後とも皆様のご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。

代表取締役社長 渡邊 淳



01



代表取締役社長 **渡邊 淳** WATANABE Jun

日本とアメリカの大学で学んだ後、1994年当社へ入社。製造現場でキャリアをスタートし、生産技術、国内営業、海外営業を担当後マレーシア駐在員、米国子会社赴任を経験。その後半導体部門長、海外支援部門長に従事。2007年取締役、2008年に先代から引き継ぐ形で現職に就任。就任後は不採算事業撤退や拠点の統廃合を通して赤字からの脱却を行った。業績回復後は製造業として「技術・品質」に加え、デジタルを企業変革の柱と据えてIT推進をリード。

02



取締役 **中川 健二** NAKAGAWA Kenji

全自動水洗い洗濯機や半導体CMP後洗浄装置の開発、ハードディスクメディアむけ研磨テープや光学検査装置の技術営業を経験。独立後は光学検査装置のマーケティングから技術、営業や貿易などに携わる。2002年に独立後、2016年当社技術本部長、2019年経営企画部長兼経営管理部長に就任。経営全般に関わりながら、社内組織体制の構築やレフタイトのリブランディング活動に注力。2021年から新事業開発に携わり、GI基金の大口径SiCウェーハの加工開発を統括している。

03



取締役 **上谷 宗久** UETANI Munehisa

2000年に当社入社。台湾支店長や海外子会社の代表取締役を経て、2012年取締役営業本部長に就任。製造拠点の運営、競合他社とのM&A、そして民事再生を経た企業の事業承継等を担当。2017年に退職し、ITベンチャーにおける取締役COOとしての経験をはじめ、エンジニアリング企業での事業開発責任者としての役職を経た後に、2022年4月に当社に復帰。外部活動としてthomas株式会社の社外取締役も務める。

04



社外取締役（独立役員） **加藤 洋美** KATO Hiromi

2007年12月に弁護士登録をし、日比谷法律事務所に入所。以降、法律業務に従事し、2021年4月には同事務所の所長に就任。現在も所長として業務を遂行中。また、2021年4月からは小岩井農牧株式会社の監査役を務めており、2023年4月には株式会社小岩井ファームダイニングの監査役にも就任し、同様に現任している。

05



社外取締役（独立役員） **宮崎 健輔** MIYAZAKI Kensuke

大学卒業後、外資系半導体製品を販売する専門商社に入社し、法人技術営業、全社プロジェクトのリーダー、海外研修、部門立ち上げなどを経験。その後、日本最大のMBAスクールを有する企業グループに転職し、経営大学院にてMBAを取得。法人営業部門のチームリーダー、コンサルタントを務めた。独立後は、経営コンサルタント、エグゼクティブコーチ、組織開発、企業研修などを手がけ、現在も事業・組織領域の両面において幅広く活動を続けている。経営者へのコーチングも行っており、人的資本経営の専門家として、企業の成長支援に注力している。

	経営全般	グローバル経営	ESG	DX戦略	研究・技術開発	M&A	マーケティング・営業	製造・生産技術	法務・リスクマネジメント	人材戦略
01  代表取締役社長 渡邊 淳	●	●	●	●		●		●		
02  取締役 中川 健二					●		●	●		
03  取締役 上谷 宗久		●		●		●	●			
04  社外取締役（独立役員） 加藤 洋美									●	
05  社外取締役（独立役員） 宮崎 健輔			●							●

人的資本の充実に向けた取り組みの一環として、従業員のウェルビーイングに関する社内アンケートを実施



目的と位置づけ

- 社員のエンゲージメントや心理的状态を可視化し、離職・休職を未然に防ぐ
- 単なる「負担軽減」ではなく、納得感・共感度の向上を目指す



特徴と現状

- 予防的要素が強く、将来的な向上に重点
- 回答率は9割超と高水準 → 社員の関心度の高さを示す



今後の方針

- 現状は、「数値の意味づけ」と「目標の明確化」に向けた段階
- 現時点では事実ベースで開示し、改善策を検討中
- 将来的に、定点観測と改善サイクルの確立を目指す



アンケート回答率 **90%**以上

当社では、次世代を担う人材の育成と長期的なキャリア形成を重視しています。そのため、以下のような多様な取り組みを行っています。

採用や育成に関する取り組み

【工場見学およびインターンシップ】

高校生を対象に工場見学やインターンシップを実施し、職業体験を通じて実際の業務を理解してもらう機会を提供しています。これにより、若い世代の興味を引き出し、将来の採用につなげています。

【OJT教育と研修制度】

当社の教育プログラムはOJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）を中心に構成されています。新入社員は現場での実務経験を積むことで、実践的なスキルを身につけます。また、各部署やキャリアパスに応じてフォローアップ研修を行い、継続的な成長を支援しています。具体的な研修内容としては、入社時研修、拠点間研修、ビジネススキル研修（外部研修）などがあります。

【新卒定着率】

当社の**新卒定着率**※は**80.0%**と高く、これは充実した研修制度と働きやすい環境が実現されている証です。新入社員が長期にわたり安心して働けるよう、支援体制を整えています。

※過去5年採用新卒定着率。国内データに基づく。

※2025年3月末現在



新卒定着率 **80.0%**

当社では、従業員一人ひとりが最大限のパフォーマンスを発揮できるよう、柔軟で多様な働き方を推進しています。



平均残業時間

11~15時間/月

男性育休取得率 80.0%

働き方に関する取り組み

【在宅勤務とスーパーフレックス制度】

働く場所や時間に柔軟性を持たせることで、従業員が自身のライフスタイルに合わせた働き方を選択できるようにしています。

【ハレアワー制度】

社員がリフレッシュし、仲間との絆を深めるために、時間単位で取得できる休暇制度です。具体的な活動例としては、部や課の全員でプロスポーツの応援に行く、花見や暑気払いを行う、打ち合わせ後に全員でボーリングに行くなどが含まれます。この制度は社員全員がリフレッシュし、良好な人間関係を築くことを目的としています。

【地域貢献活動】

小中学生を対象とした「研磨加工教室」の開催や定期的な公園美化活動の実施等を通して、地域社会への貢献を大切にしています。

【社内行事】

当社が大切にしている『みんな仲良く』の精神を実現するため、また「働き方改革」の一環として、社内行事を積極的に実施しています。これにより、社員間のコミュニケーションが深まり、より良いチームワークが築かれています。

【残業時間の管理】

当社の従業員の平均残業時間は年間で12.4時間、月11~15時間*を推移しています。具体的な目標数値は持っていませんが、バランスの取れた働き方を重視しています。

【有給休暇取得率】

有給取得率の目標を80%と設定しており、現状では92.1%*です。これにより、従業員のワークライフバランス向上を図っています。また、男性育休取得率は80.0%*となっております。

当社では、従業員のエンゲージメントを高め、働きがいのある職場環境を実現するために、以下の取り組みを行っています。

エンゲージメントに関する取り組み

【COMPASSの作成】

当社の指針となる「COMPASS」を作成し、全従業員に共有しています。この指針は、企業理念やビジョン、行動指針を明確にし、従業員が日々の業務において共通の目標と価値観を持つための基盤となっています。

【定期的なアンケートの実施】

従業員の声を直接反映させるために、定期的に従業員サーベイ（ウェルビーイングサーベイ）を実施しています。このアンケートでは、従業員の満足度や不満点を収集し、それに基づいた具体的な対策を講じています。従業員の意見を積極的に取り入れることで、働きやすい環境の整備とエンゲージメント向上を図っています。

これらの取り組みの結果として、当社の退職率は**6.9%（グローバル）**となっており、従業員が長く安心して働ける環境が整っています。これからも、従業員の声を大切に、エンゲージメント向上に努めてまいります。



退職率 **6.9%**

*2025年3月末現在

当社では、安全と適正を最優先に考え、職場環境の最適化に向けた取り組みを積極的に行っています。



5S活動

健康・安全に関する取り組み

【5S活動】

5つの要素からなる5S活動を推進しています。これにより、職場の安全性を向上させ、効率的な作業環境を整えています。

【5Sとは】

- | | | |
|----|----------|-----------------------------------|
| 整理 | Seiri | : いらないものを捨てる |
| 整頓 | Seiton | : 決められたものを決められた場所に置き、取り出せる状態にしておく |
| 清掃 | Seisou | : 常に掃除する |
| 清潔 | Seiketsu | : 3S（整理、整頓、清掃）を維持し、職場の衛生を保つ |
| 躰 | Shitsuke | : 決められたルールを守る、手順を正しく守る、習慣をつける |

当社は生産性向上のための業務効率化を行っています。安全性、快適性の高い工場を目指し、決められたルールを当たり前を守る風土を作り、会社の信用度、会社の利益に繋がります。安全で安心して働ける職場環境の維持と向上に努めています。

当社では、多様性を尊重し、誰もが活躍できる職場環境の実現に向けた取り組みを進めています。

ダイバーシティに関する取り組み

【男女別従業員比率】

従業員比率は**男性：女性が3.6：1（グローバル）**となっています。これに対して、女性の採用や昇進の機会を増やす取り組みを進めています。

【男女別賃金格差】

男女間の賃金格差は61.8%（国内のみ）です。なお、属性（勤続年数、役職等）が同じ男女労働者間での賃金の差異はありません。

【女性管理職比率】

女性管理職比率は11.4%（グローバル）です。女性リーダーの育成プログラムやメンター制度を導入し、女性が管理職として活躍できる環境作りを推進しています。

【障がい者雇用比率】

障がい者雇用比率は1.8%（国内のみ）であり、目標の2.7%（2026年までに）に向けて取り組んでいます。職場のバリアフリー化や障がい者向けの職務設計を進めることで、働きやすい環境を整備しています。



男女間の賃金格差 **61.8%**

女性管理職比率 **11.4%**

障がい者雇用比率 **1.8%**

Environment



- 太陽光パネル導入の推進
- IH粉体塗装システム
- RTOの利用によるVOC削減
- LNGボイラの導入
- リサイクル素材を使用した製品の開発
- グリーンイノベーションへの取り組み
- ISO14001 にもとづいた環境負荷軽減

Social



- Eラーニングによる社内教育の充実
- スーパーフレックスタイムの導入
- 人事評価システムの構築
- 資格取得の促進および取得後の手当の充実
- 労働災害事故の防止
- 若手の定着率の向上
- 女性従業員比率の向上

Governance



- 透明性のある情報開示
- 内部通報窓口を外部企業に委託
- 全社員に対するコンプライアンス研修の実施
- グループ各社に対するガバナンスとモニタリング体制の強化



● 工場/オフィス ● 営業拠点



IRお問い合わせ

フェアディスクロージャーの観点から、公平な情報開示体制と株主様と投資家の皆様へのお問合せ対応の維持を考慮し、IRお問い合わせ窓口のお電話での対応をおこなっておりません。HPのお問い合わせフォームをご利用ください。

お問い合わせはこちら >

<https://www.mipox.co.jp/inquiry.html>



mipox



Ref Lite
Color Your Style.

